



中部支部長就任のご挨拶

中部支部長 **山田 喜美雄**

本年4月から当協会中部支部長を務めております山田喜美雄です。微力ではございますが、皆様のご助言、ご協力を仰ぎ、ダクタイル鉄管の更なる普及拡大に取り組む所存です。どうぞよろしくお願い申し上げます。

感染力が高いデルタ株による新型コロナウイルスの脅威は増すばかりでまったく先行きが見通せない状況が続いておりますが、24時間365日、絶えず水道水を供給されている水道事業体、関係者の方々に改めて敬意を表します。

私は昭和59年に当時の名古屋水道局に入局後、一貫して水道事業に携わり、上下水道局発足後は下水道事業にも関わることができました。在職中に何度か災害対応の機会を得ましたが、その中でも中越地震によって壊滅的な被害を被った新潟県の旧山古志村の水道施設の復旧を長岡市水道局の職員として1年間担当したことは、何ものにも代えがたい経験でした。震災により全村避難を余儀なくされた旧山古志村では、大規模な地滑りにより全管路の1割強が流出するなど、中山間地を襲った大地震による水道施設の被害形態は前例が見当たらないものでした。復旧計画の策定から災害査定の対応に至るまで苦労の連続でしたが、得るものも大きかったです。余談になりますが、この年は豪雪でしたので、積雪が3m以上あった真冬に除雪車の助けを受けて漏水を修理したこともありました。

この他にも多くの経験をさせていただき、その中でたくさんの人たちと出会うことができました。これまで出会った人たちとの絆を大切に、これからの新しい出会いに期待して仕事に励みたいと思います。

本格的な人口減少社会の到来や、厳しい財政状況が続くなど、水道事業を取り巻く環境が一層厳しさを増す中で、老朽施設の対応や地震を始めとする自然災害への備え、技術継承といった複雑多様化する諸課題の解決に向けて待ったなしの取り組みが求められています。私も気持ちを新たにして、持続可能な水道事業運営の一助を担えるよう努力してまいります。



関東支部 顧問就任のご挨拶

関東支部 顧問 あがた 縣 まさあき 雅明

本年4月に関東支部顧問に就任しました縣雅明です。よろしくお願いいたします。

前職千葉県には37年間勤務し、昭和・平成・令和と、ほぼ一貫して県営水道に在籍しました。厚生省水道整備課や企画部水政課で水道行政にも関わりました。厚生省で印象に残る仕事の1つは、JICWELSの依頼で行ったフィリピン共和国のいくつかの地方都市の水道事情調査でした。今から28年前、初めての海外で目の当たりにしたのは、熱帯モンスーンの猛暑のなか、水源と管路等の問題で時間給水が常態化し、ホテルでも水洗トイレや洗濯が思い通りにならない状況でした。ボトル水はビールより高価でした。関係者の皆様のおかげで、調査団長の責務を無事果たすことが出来、当たり前前に水が届くありがたさ・パイプラインの大切さを、身をもって知りました。

キャリアの終盤は、東日本大震災時の926か所の漏水や、令和元年台風15・19・21号の相次ぐ風水害など災害対応が続きました。15号の時は自宅の屋根・雨戸・戸袋が壊れて浸水し、電話の不通・停電・断水も1週間以上続きました。自ら被災者となりつつも復旧対応や他水道事業体への応援を続け、ライフラインの大切さを心に刻みました。最後の年末年始は県内水道事業体で別々に大規模漏水と濁水が発生しました。コロナ宿泊療養施設や鳥インフルエンザでの知事部局支援が重なり人出が割かれても、力をあわせて応援業務を続け終息に協力しました。

慌ただしく時は過ぎましたが、多くの方々に支えていただき、後世に引き継ぐ社会基盤の整備にもいろいろ携わりました。日本水道新聞や水道産業新聞の座談会等を通じて数多く情報発信し、厚生労働省の水道技術管理者研修(平成元年10月31日)には講師としても参加させていただきました。

コロナ禍が長くなり在宅・リモート勤務が定着しましたが、このような時でも日常生活や産業活動が支障なく続けられるのは、上下水道、農業用水、工業用水、ガス、電気、情報通信といったインフラ施設の下支えがあるからです。そのうち管路は多くの水道事業体で固定資産の6割以上を占め、サービスの基盤です。水道管路に限らず、更新・耐震化、不断の管網整備は、喫緊の課題です。

協会に勤務して半年が過ぎ、あらためて皆様の温かい心遣いに感謝しています。今年も全国各地で地震・風水害が続いています。心からお見舞い申し上げます。自然災害、環境問題、新型コロナウイルスなどで先行き不透明な時代ですが、私はこれからも当協会での活動を通じて、生命と財産を守るライフラインの構築に少しでもお役に立てるよう、力を尽くしてまいります。



九州支部長就任のご挨拶

九州支部長 清森 俊彦

本年7月に九州支部長に就任しました清森でございます。よろしくお願いいたします。

私は福岡市に土木職として採用され、道路事業やまちづくりにも携わりましたが、一番長く関わったのが水道です。最初に配属されたのが水道局で、当時は給水制限が287日にも及ぶ昭和53年の異常渇水の直後で、節水型都市づくりと水資源開発を大きな柱に様々な施策を検討するとともに、実行に移せるものはすぐにでも事業として展開するなど、二度と同じような渇水は起こさないとの使命の下、局一丸となって取り組んでいる時でした。今では当たり前の節水機器の普及や開発、漏水防止の強化、配水調整システムの導入、配水ネットワークの整備、下水処理水の再利用などの水の有効利用施策を進める一方で、水源を確保するため、ダム湖底掘削、農業用水のパイピングや下水処理水の振替による水利権の確保、広域導水、揚水式ダム、渇水対策ダムなど工夫を凝らしたありとあらゆる施策の調査検討を行っていました。その後、さらに平成6年の異常渇水を経験し、海水淡水化施設までも導入することになります。

そのいろいろな施策の検討や実施に携わることができて、水道を学び、成長していく都市をその水道技術で支えているというやりがいを感じながら楽しく仕事をすることができました。その間、阪神淡路大震災など地震や豪雨災害支援や、マレーシア、フィリピン、中国にもJICA専門家として派遣されるなど貴重な経験もさせていただき、水道が私を育ててくれたと言っても過言ではありません。近年は、全国で毎年のように地震や豪雨などにより甚大な災害が発生しています。普段は何気なく使っている水も災害などで断水すると、必ずテレビや新聞で大きく取り上げられます。現在、水道事業を取り巻く経営環境が大変厳しい中でも、来るべき災害等にも対応できるよう、水道施設の老朽化に伴う更新や耐震化などを進めていく必要があります。そのような水道の現状や将来の水道のあり方などをより多くの方に知っていただき考えていただくために、もっと常日頃から水道に関心を寄せて、取り上げてくれてもよいのではないかと常々思っています。

水道は市民生活を支える欠くことのできない重要なライフラインです。将来にわたって、どんな時でも安全で良質な水の安定供給ができるよう、これまで先達が築き上げてこられた水道を、国が示された「安全」、「強靱」、「持続」をキーワードに、さらにより良いものとして次の世代へ引き継いでいけるために少しでもお手伝いできれば幸いです。

Beyond —みらいを変える!みらいが変わる!—「下水道展'21大阪」に出展

8月17日～20日の4日間、インテックス大阪で「下水道展'21大阪」が開催され、日本ダクタイル鉄管協会も「下水道の未来・暮らしの未来を支えるダクタイル鉄管」と題して出展しました。

ブース前面に大型モニターを配置して耐震継手ダクタイル鉄管による圧送管路のご提案を主体とした映像を繰り返し上映するとともに、GX形、NS形E種管の実物カットサンプル、耐震継手ダクタイル鉄管手動模型、エポキシ樹脂粉体塗装の実管サンプルおよび各種パネル等を展示いたしました。実物を実際に見て、触れてもらって、多くのお客様にダクタイル鉄管の良さを体感していただくことができました。



WEBサイトをリニューアル

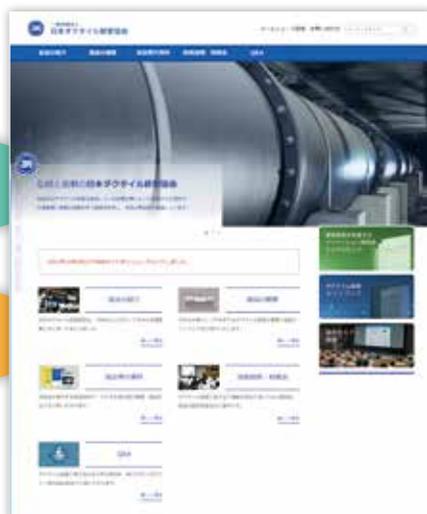
2021年10月1日にホームページを全面的にリニューアルしました。お客様からのご要望にお応えし、コンテンツを充実し見やすく分かりやすい形としました。

豊富なコンテンツに
すばやくアクセスできる

求める資料・情報が
スムーズに見つかる

見やすくわかりやすい
デザイン

スマホからでも
全資料の閲覧が可能



アクセスはこちらから▶
<https://www.jdpa.gr.jp/>



2021年度日本ダクタイル鉄管協会セミナー開催予定

2021年度は、昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症対策を行い、現地会場と会場によってはWEB参加の併用で、下記のようにセミナーを開催する予定としております。

支部	開催日・開催場所	講師	web配信	開催状況
東北	2022年2月18日 仙台市	名古屋大学 減災連携研究センター 准教授 平山 修久 氏	○	
		八戸圏域水道企業団 配水課 配水管理グループリーダー 副参事 上野 光弘 氏		
関東	9月15日 さいたま市	全国管工事業協同組合連合会 専務理事 粕谷 明博 氏	○	終了しました
		東京都立大学 都市環境学部 都市基盤環境学科 准教授 荒井 康裕 氏		
	10月26日	豊中市上下水道局 技術部次長 牟田 義次 氏	○ web配信のみ	終了しました
		千歳科学技術大学 理工学部 応用化学生物学科 教授 下村 政嗣 氏		
	11月1日 松本市	名古屋市上下水道局 技術本部 管路部長 粟田 政一 氏		終了しました
		京都大学大学院 工学研究科 都市環境工学専攻 教授 伊藤 禎彦 氏		
11月17日 千葉市	横浜市水道局 配水部長 鈴木 雅彦 氏	○		
	東京大学大学院 工学系研究科 社会基盤学専攻 社会基盤サイエンス講座 教授 沖 大幹 氏			
2022年1月25日 平塚市	独立行政法人 水資源機構 理事 熊谷 和哉 氏	○		
	東京大学 生産技術研究所 基礎系部門 准教授 清田 隆 氏			
中部	11月25日 名古屋市	京都市上下水道局 水道部長 伊木 聖児 氏		
		岐阜大学 工学部 社会基盤工学科 教授 能島 暢呂 氏		
関西	11月24日 大阪市	東京大学大学院 工学系研究科 都市工学専攻 都市環境工学講座 教授 滝沢 智 氏	○	
		公益財団法人 水道技術研究センター 常務理事 清塚 雅彦 氏		
関西・ 中国四国 共催	12月22日 徳島市	金沢大学 理工研究域 地球社会基盤系地震工学講座 教授 宮島 昌克 氏	○	
		呉市上下水道局 経営企画課 課長 増木 誠治 氏		
中国 四国	10月28日 広島市	鳥取大学 工学部 社会システム土木系学科 教授 小野 祐輔 氏	○	終了しました
		福岡市水道局 配水部 整備推進課長 田中 辰夫 氏		
九州	2022年2月8日 福岡市	千葉大学大学院 工学研究科 融合理工学府 都市環境システムコース 教授 丸山 喜久 氏	○	
		近畿大学 経営学部経営学科 商学研究科 教授 浦上 拓也 氏		

技術の継承！ 新任職員向け技術説明会

日本ダクタイル鉄管協会では、様々な技術説明会メニューを用意しております。今回は水道技術継承を目的に、継続して毎年新任職員を対象とした研修会を開催している事業体を紹介します。

毎年、新任職員を対象とした研修会を開催！ 静岡県くらし・環境部環境局水利用課

近年、市町村の水道事業体においては、人員削減や団塊世代の職員の大量退職などにより、新任職員への技術継承が困難となっています。静岡県では、こうした状況を踏まえ、平成27年度から、早期の基礎的知識の習得を目指した「市町新任水道職員研修会」を、県主催で開催しています。今年度は新型コロナウイルス蔓延の影響を鑑み規模を縮小しましたが、県内の水道事業体から43名の新任職員が受講しました。

水道法の基本的な内容や施設をはじめ、水質の維持管理、管路の特性や施工手法など幅広い研修内容となっており、このうち、ダクタイル鉄管の特性や耐震性、具体的な施工手法やその留意点については、例年、貴協会に御協力いただき、わかりやすく解説していただいております。

今後も、貴協会と連携しながら、県下の水道事業体の技術継承ができればと考えています。



今年度の開催状況(オンライン)

「10年前より実施」工場見学及び GX 形接合講習会 さいたま市水道局

さいたま市水道局では、給水人口約130万人のお客様へ、安全・安心な水道を安定的に供給していくために、毎年多くの水道工事を行っており、工事担当職員も多数配属しています。また、工事を適切に設計し、円滑に施工管理を行うための技術継承が喫緊の課題となっており、工事に使用する水道管の特徴や、配管接合時の注意点を学ぶため、(一社)日本ダクタイル鉄管協会主催の「工場見学及びGX形接合講習会」に新規採用職員や水道工事未経験職員を中心に参加しました。

工場見学では、普段見ることができないダクタイル鉄管の製造工程について説明を受けながら見学することができました。また、GX形接合講習会では、配管接合時のポイントについて説明を受けた後、接合・解体作業を目の前で見学できました。受講者からは「GX形の構造や接合方法について理解できた。今後の業務に活かしたい」という声があがりました。



今年度の開催状況

※技術説明会に関するメニュー、新任職員向けの研修のご相談などは各支部まで問い合わせをお願いします。

HINODE

IoTを活用した 管網管理の効率化

流況監視ユニット

センサで計測した水圧や流量などの流況を
アンテナとバッテリーを搭載した鉄蓋からクラウドに送信
事務所やスマートフォンから流況の遠隔常時監視を
可能にするボックスユニットです



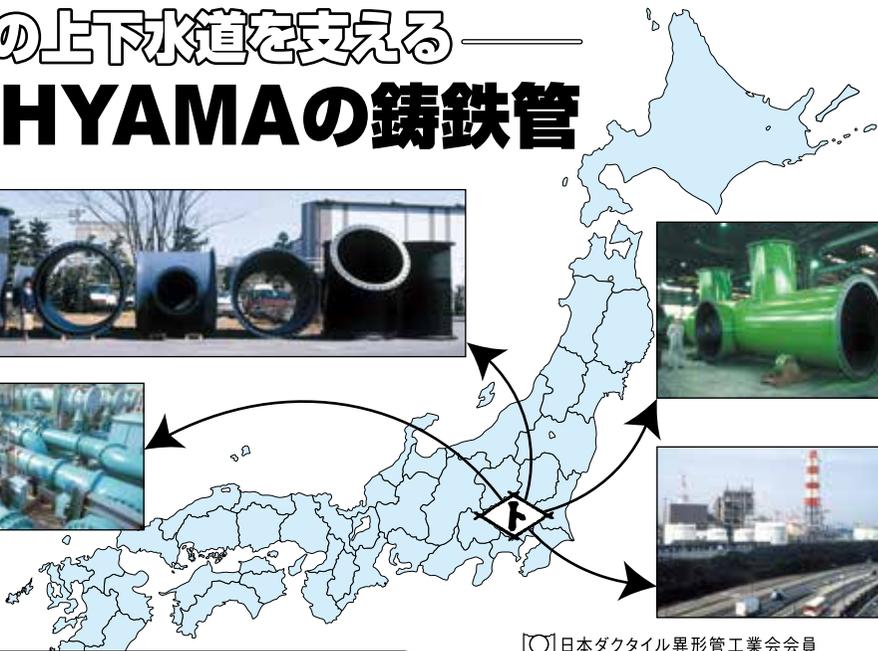
詳しい特長はこちら

日之出水道機器株式会社

本社 / 福岡市博多区堅粕5-8-18(ヒノデビルディング)
<https://hinodesuido.co.jp>

Tel(092)476-0777

日本の上下水道を支える —— TOHYAMAの鑄鉄管



■ 営業品目

上・下水道用 }
工業用下水道用 } ダクタイル鑄鉄管
ポンプ用 } (口径75_{mm}~3,000_{mm})



[〇] 日本ダクタイル異形管工業会会員

株式会社 遠山鐵工所

本社 埼玉県久喜市菟浦町昭和18番地
☎0480(85)2111 FAX0480(85)7100

浄水場・配水池・水処理センターの建設、更新に 丸マークのフランジ形異形管



豊富な管種、安定した品質、確実な納期で九州鑄鉄管の製品は日本全国で活躍しています。

 **九州鑄鉄管株式会社**

<http://www.kyuchu.co.jp>

本 社：福岡県直方市大字上新入1660-9

TEL 0949-24-1313

東京支店：東京都千代田区内神田2-7-12 第一電建ビル401号

TEL 03-3525-4551

ホームページで便覧がダウンロード できるようになりました。



そのほか、各種技術資料もダウンロードできます。



(一社) 日本ダクタイル鉄管協会

編集後記

●新型コロナウイルス感染症の影響で多くのイベントや会議が中止となっています。今回の座談会は、緊急事態宣言が発令されている中で、仙台市、石巻地方広域水道企業団、盛岡市、郡山市とリモートで「東日本大震災から10年が経過して」をテーマとして実施しました。当時の状況を思い出していただくことは、心情的に心苦しいことでしたが、皆さんには、質問にお答えいただき、東日本大震災の被害の大きさを改めて知ることができました。災害時に協定を結んでいた民間企業が機能停止に陥ったことや被害状況の把握、早期復旧は重要であるがまず職員の命があってのこと、津波災害ゆえの中継拠点という

考え、住民の方々も最初は飲み水、時間が経過すると生活用水の需要が増えるなど、今後の災害対策への教訓として活かすべき話を聞くことができました。日本の水道は蛇口をひねると水が出ますが、蛇口の向こうに多くの職員のたゆまぬ努力があることを胸に刻みました。

●技術レポートは5編、管路更新3編、ネットワーク化1編、災害復旧1編を執筆いただきました。読者の皆様の今後の事業の参考になれば幸いです。

●表紙は『水の写真コンテスト』（主催：水道産業新聞社）の受賞作品を使用していきます。なお、今号の表紙は弊協会会長賞の写真です。

ダクタイトイル鉄管第109号〈非売品〉

2021年11月15日発行

編集兼発行人 久 保 俊 裕

発行所 一般社団法人
日本ダクタイトイル鉄管協会
(<https://www.jdpa.gr.jp>)

本部・関東支部	〒102-0074	東京都千代田区九段南4丁目8番9号(日本水道会館)
		電話03(3264)6655(代) FAX03(3264)5075
関西支部	〒542-0081	大阪府中央区南船場4丁目12番12号(ニッセイ心斎橋ウエスト)
		電話06(6245)0401 FAX06(6245)0300
北海道支部	〒060-0002	札幌市中央区北2条西2丁目41番地(札幌2・2ビル)
		電話011(251)8710 FAX011(522)5310
東北支部	〒980-0014	仙台市青葉区本町2丁目5番1号(オーク仙台ビル)
		電話022(261)0462 FAX022(399)6590
中部支部	〒450-0002	名古屋市市中村区名駅3丁目22番8号(大東海ビル)
		電話052(561)3075 FAX052(433)8338
中国四国支部	〒730-0032	広島市中区立町2番23号(野村不動産広島ビル8階)
		電話082(545)3596 FAX082(545)3586
九州支部	〒810-0001	福岡市中央区天神2丁目14番2号(福岡証券ビル)
		電話092(771)8928 FAX092(406)2256

なんだ管だと
管カエルなら
NCKダクタイトイル鉄管



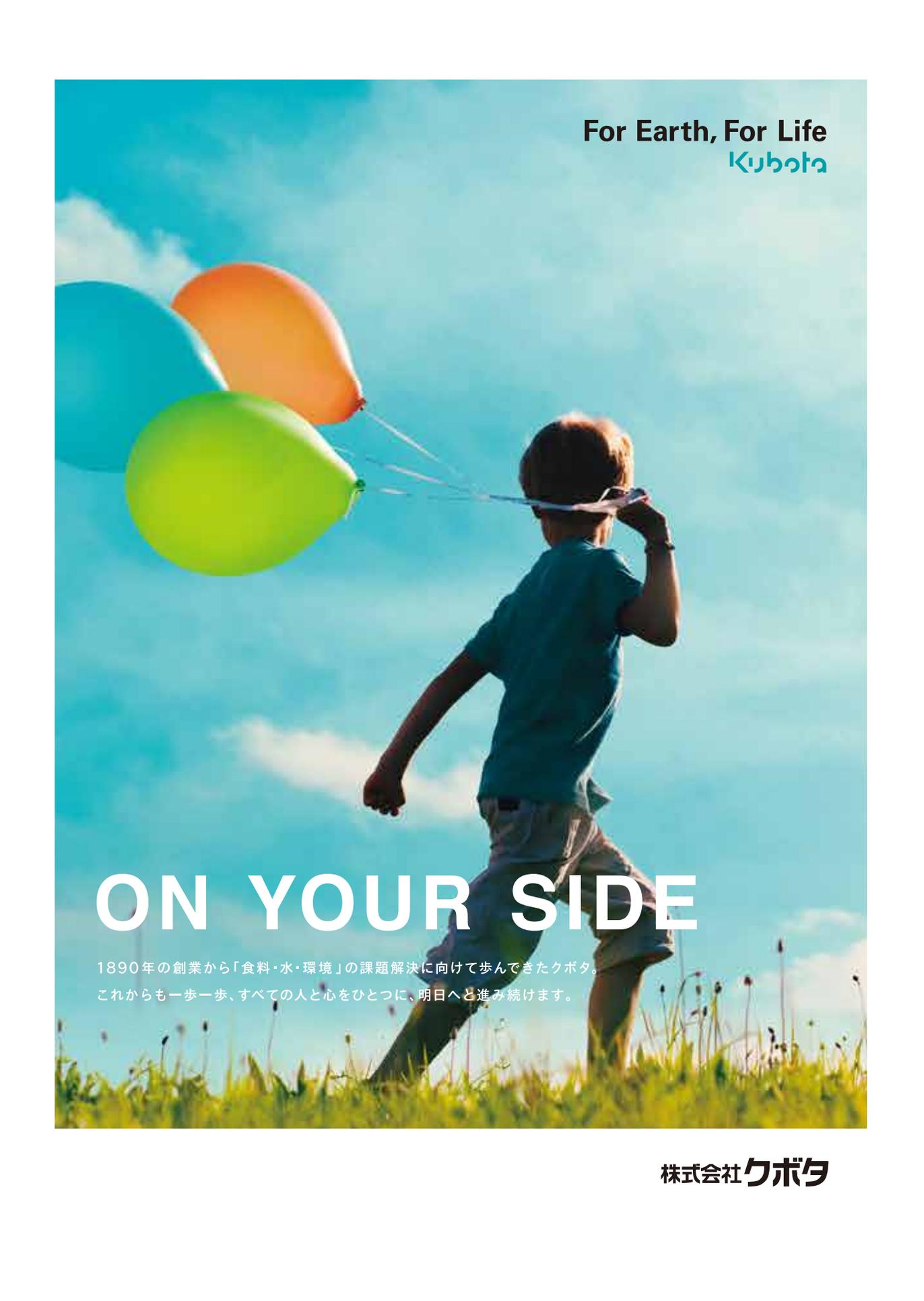
管路の更新や新設には、耐震性・
耐久性・耐蝕性に優れ、安全・確実な
施工性で定評のNCKダクタイトイル鉄管。

直管・異形管、鉄蓋など、
ダクタイトイル製管路システム一式を揃え、
製造から責任施工まで、NCKの一貫した
先進技術でお応えします。



NCK 日本鑄鉄管株式會社

本 社：〒104-0045 東京都中央区築地1-12-22 ☎(03)3546-7671(代) 東北支社：〒980-0014 仙台市青葉区本町3-5-22 ☎(022)263-2731(代)
工 場：〒346-0193 埼玉県久喜市菟浦町昭和沼1番地 ☎(0480)85-1101(代) 中部支社：〒451-0046 名古屋市西区牛島町5番2号 ☎(052)582-9808(代)
北海道支社：〒003-0821 札幌市白石区菊水元町1条2丁目3番8号 ☎(011)871-4445(代) 九州支社：〒812-0037 福岡市博多区御供所町1-1 ☎(092)282-0201(代)



For Earth, For Life
Kubota

ON YOUR SIDE

1890年の創業から「食料・水・環境」の課題解決に向けて歩んできたクボタ。
これからも一歩一歩、すべての人と心をひとつに、明日へと進み続けます。

株式会社クボタ